

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	熊本大学
整理番号	B10
構 想 名	地域と世界をつなぐグローバル大学K u m a m o t o

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)	
B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント)	
	<p>本構想は、「国際通用性の高い学部教育のグローバル化」、「外国人留学生に対する多様な受入れ体制の提供」、「世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化」、及び「世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供」の4つの中心的施策を目標に、教育力と研究力で我が国を牽引する真のグローバル大学を目指すものである。</p> <p>目標に掲げた4つの施策はそれぞれが概ね着実に進展しており、グローバルリーダーコースの新設やグローバル教育カレッジの設置、5ターム制の導入、九州地域の高校生や高専生に対するグローバル化への積極的な支援等の特色ある取組が進められている。</p> <p>一方で、当初グローバル化を牽引するモデル学部として未来創成学部を新設する計画が、実際には複数の学部でグローバルリーダーコースを設置することに変更されており、構想の主要な部分の一つが予定どおり実施されなかった。また、構想にある様々な施策が実施されているものの、それが大学全体のグローバル化に向けた改善・改革にどれほど繋がっているのかについては疑問が残る。例えば、目標の達成状況については数値目標を下回っている項目が散見される。具体的には、国際化関連の指標（教職員に占める外国人等の割合、日本人学生に占める留学経験者の割合、外国語のみで卒業できるコースの数、外国語力基準を満たす学生数、ナンバリング実施状況、シラバスの英語化の状況）やガバナンス改革関連（年俸制の導入、テニュアトラック制の導入）、教育の改革的取組関連（学生による授業評価実施授業科目数、TOEFL 等外部試験の学部入試への活用）等が挙げられる。</p> <p>このことは、多分に平成28年4月の熊本地震の影響によるものとも考えられるが、本構想の趣旨が、教職員はもとより学生を含め、全学に十分には共有されていないためではないかという点が懸念される。今後、学長のリーダーシップの下で学部等の合意・協力を確保するとともに、教職員や学生に本構想の意図を浸透させるための全学的な体制整備に努める必要がある。</p>